

令和7年度開講 新3年生対象演習一覧

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

	科目名	担当者	曜日	時限	テーマ
上代	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	土佐 秀里	木	5	万葉集の物語性と歴史性
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	谷口 雅博	火	3	上代の神話・説話を読む
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	上野 誠	火	3	『万葉集』の風土論的研究、及び文化論的研究
中古	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	太田 敦子	月	2	『源氏物語』「若菜上」巻を読む
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	塚原 明弘	木	6	『源氏物語』「玉鬘」巻・「初音」巻を読む
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	竹内 正彦	金	6	『源氏物語』「絵合」巻を読む
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	津島 知明	月	3	『枕草子』を読み味わう
中世	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	荒木 優也	火	3	『百人一首』を古注釈で読む
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	荒木 優也	木	6	『古今和歌集』『新古今和歌集』を読む
近世	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	岩崎 雅彦	火	6	浄瑠璃の研究
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	中村 正明	火	3	黄表紙を読み解く ―江戸の庶民文化と文学―
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	中村 正明	木	6	明治初期文学を読み解く ―仮名垣魯文と新聞小説―
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	藤川 雅恵	金	4	江戸時代の怪談集を読む
近現代	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	石川 則夫★	金	3	近現代文学専攻者の卒論作成に向けての演習
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	安西 晋二	木	5	戦後以降の現代小説を読む
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	安西 晋二★	木	6	近現代文学の作品研究
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	鬼頭 七美	月	2	新聞小説を読む
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	岡崎 直也	月	4	堀 辰雄の文学

科目名	担当者	曜日	時限	テーマ
日本語学演習ⅡA・ⅡB	仁科 明	月	5	中古日本語の研究
日本語学演習ⅡA・ⅡB	小田 勝	月	6	古典文法の研究、古典文解釈法の研究
日本語学演習ⅢA・ⅢB	吉田 永弘	木	6	中世日本語の研究
日本語学演習ⅢA・ⅢB	諸星 美智直	木	3	ⅢA ビジネス言語学（文書・会話の語彙・語法）とⅢB 近代敬語の研究
日本語学演習ⅢA・ⅢB	三井 はるみ	火	6	社会言語学文献講読と調査研究
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	飯倉 義之	金	4	現代の伝承・都市民俗を調査・研究する
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	八木橋 伸浩	水	2	現在学としての民俗学の実践的演習
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	内藤 久義	月	4	境界の民俗学
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	大石 泰夫	水	2	祭礼と芸能及びそれに関わる多様な民俗を考える
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	松尾 恒一	木	5	祭礼・芸能文化、年中行事、民間信仰・民俗宗教の調査と研究法
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	高久 舞	水	2	民俗芸能研究の方法の習得と民俗芸能の現代的課題を考える
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	鈴木 明子	金	6	絵図資料に見る芸能と伝承
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	伊藤 龍平	火	6	『耳囊』を読む
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	伊藤 慎吾	月	5	伝説・怪異伝承と地域社会
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	服部 比呂美	金	3	「諸国風俗問状答」から民俗の比較研究の方法を学ぶ

科目名	担当者	曜日	時限	テーマ
言語学演習Ⅰ・Ⅱ	中野 真樹	月	3	福祉言語学と情報保障についての研究
言語学演習Ⅰ・Ⅱ	新井 小枝子	火	1	Ⅰ方言語彙研究の課題 Ⅱ方言語彙の記述と考察
書道演習Ⅰ・Ⅱ	野村 ひかり	月	1	漢字書道—名品の表現を学ぶ—
表現文化演習Ⅰ・Ⅱ	川口 晴美	木	3	日本語で書かれたさまざまな詩を読み、自分でも詩を書く。
日本語教育学演習ⅠA・ⅠB	新任教員	木	2	初級日本語教育における文法指導
日本語教育学演習ⅡA・ⅡB	新任教員	火	6	日本語学習者の誤用から日本語を考える

日本文学科 新3年生
令和7年度開講「演習」仮シラバス
【日本文学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

	科目名	担当者	曜日	時限
上代	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	土佐 秀里	木	5
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	谷口 雅博	火	3
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	上野 誠	火	3
中古	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	太田 敦子	月	2
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	塚原 明弘	木	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	竹内 正彦	金	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	津島 知明	月	3
中世	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	荒木 優也	火	3
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	荒木 優也	木	6
近世	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	岩崎 雅彦	火	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	中村 正明	火	3
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	中村 正明	木	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	藤川 雅恵	金	4
近現代	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	石川 則夫★	金	3
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	安西 晋二	木	5
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	安西 晋二★	木	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	鬼頭 七美	月	2
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	岡崎 直也	月	4
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB			

※★印の科目は、原則として卒業論文履修者が履修することができる。

【上代文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
【時限】5限	
【教員名】土佐秀里	
【テーマ】万葉集の物語性と歴史性	
<p>(演習内容)</p> <p>この演習は『万葉集』を研究するものですが、日本文学演習Ⅰの古典分野(上代・中古・中世・近世)を履修していることが前提になっています。また編入生の場合は、短大等で万葉集または上代文学に関する演習・講義を履修していることを必須とします。毎年途中で脱落する編入生が多いので、この点は特に注意してください。この演習Ⅱは、日本文学科の3年生として当然備えているべき文学史的知識と古典文法の知識が、十分に備わっていることを前提に開講しています。その前提が欠けている人は、まずは「演習Ⅰ」を履修してから、この演習Ⅱに進んでいただきたいと思います。</p> <p>この演習の大きなテーマは、①万葉集の歌を、物語を読むようにして読む、②万葉集の歌の歴史的背景を考えて読む、というのですが、演習発表そのものは、それぞれの発表者が個別に具体的なテーマを設定し、それに見合った具体的な作品を精読してゆくことになります。個別のテーマ設定と作品選択についてはいくらかでもアドバイスしますが、「作品を読む」という要素がないものは発表として認められません。また、その読み方が既存の注釈書等に頼っただけの「浅い」ものであれば、評価はできません。最初の授業でこの演習の方針を示しますので、その趣旨を十分に理解して発表を行ってください。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>①最初の授業に出席し、演習の趣旨を理解していること。②日本文学科3年として持っていないとではない文法知識や文学史知識が備わっていること。③概説や理論ではなく、具体的な作品を考察の対象とし、その分析を行っていること。④発表資料の密度と分量が一定以上であること。内容のない水増しはマイナス評価となる。⑤他人の受け売りではない、自分なりの着眼点や考え方が示されていること。⑥質疑応答に対し、その場で考え、答えること。⑦「文学」であることの意味と、その面白さについて十分に考えていること。以上の七項目の観点から、発表資料・発表内容・質疑応答を総合的に評価する。</p>	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜
	【時限】3限
【教員名】谷口雅博	
【テーマ】上代の神話・説話を読む	
<p>(演習内容)</p> <p>『古事記』(中・下巻)、「風土記」等に記載された神話・説話を対象とし、学生の発表を中心に据えて授業を行う。本文の的確な読みを検討した上で、古代的な論理・信仰・習俗などの背景について考えつつ、新たな読みを模索していく。</p> <p>上代の文献には本文・訓読に問題のある箇所が多く、また解釈も定まっていない話が多い。まずは本文批判を徹底し、その上で各神話・説話の検討を行う必要がある。従って、本文などを確定する一回目と、内容を検討する二回目とに分けて発表を義務付けることになる。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表資料・発表内容・質疑応答 50% 学年末レポート 50%</p>	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜
	【時限】3限
【教員名】上野 誠	
【テーマ】『万葉集』の風土論的研究、及び文化論的研究	
<p>(演習内容)</p> <p>『万葉集』の歌々の表現が、風土とどのように結びついているのか、結びついていないのか、具体的に考えてゆきます。明日香とはどんなところなのか、平城京は都としてどのように表現されているのか、吉野の離宮はどういう構造を持っていたのか。そういった諸問題を具体的に考えてゆきます。いわば万葉小旅行のようなかたちをとりながら、風土と文学の関係を考える授業となるはずです。歴史学、考古学、民俗学などの知識を動員して考察を進めてゆきます。本年度は、巻14～16を中心にします。卒業論文を提出する人は、必ずこの演習を履修するようにしてください。履修しない人は、指導できません。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>授業での取り組みを重視し、平常点で評価します。100%平常点。</p>	

【中古文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】月曜
	【時限】2限
【教員名】太田敦子	
【テーマ】『源氏物語』「若菜上」巻を読む	
(演習内容) 『源氏物語』「若菜上」巻の輪読を行う。発表者は担当する場面の諸注釈整理および研究を発表し、教員を交えた質疑応答に臨む。担当する場面の問題点を見つけ、問題を解決していくことを通して、『源氏物語』への理解を深めていくことを目指す。	
(評価方法) 口頭発表 (60%)、口頭発表に基づくレポート (20%)、授業への参加態度 (20%)	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】塚原明弘	
【テーマ】『源氏物語』「玉鬘」巻・「初音」巻を読む	
(演習内容) 受講者の発表と質疑、教員の講評により、『源氏物語』を読み進めていく。今年は、「玉鬘」巻、光源氏と玉鬘の贈答から進める。1人、年2回程度の発表を課す予定。求める内容は、音読・現代語訳・諸注による解釈の問題点・研究鑑賞。物語を味わい、楽しむことを出発点にして、作品研究の基礎を身につけるとともに、自分を見つめ、世界を考える力を涵養する。	
(評価方法) 出席 30%・発表 35%・年末のレポート 35%による。年末のレポートは、発表で扱った内容を発展させてまとめるのが理想。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】金曜
	【時限】6限
【教員名】竹内正彦	
【テーマ】『源氏物語』「絵合」巻を読む	
<p>(演習内容)</p> <p>『源氏物語』「絵合」巻を対象として輪読を行う。発表担当者が担当範囲について、諸本の異同、諸注釈、現代語訳、調査・研究といった項目にわたって資料を使いながら発表し、その後、受講者相互の討議を行うことによって、『源氏物語』を読み深めるとともにその研究方法を学んでいく。口頭発表は各学期にそれぞれ1回を予定。各学期末にはレポートを課す。『源氏物語』は、調べれば調べるほど、奥深い世界を見せてくれる。受講生の積極的な取り組みが期待される。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表資料・発表内容60% レポート20% 授業への取り組み状況20%</p>	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】月曜
	【時限】3限
【教員名】津島知明	
【テーマ】『枕草子』を読み味わう	
<p>(演習内容)</p> <p>『枕草子』の様々な章段を読みながら、その魅力を味わっていきます。担当範囲を割り当て、調べてきた結果を口頭発表してもらいます。質疑応答を経て、さらに各自で問題点を深めてもらいます。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点100%。発表内容およびコメントの提出状況で評価します。</p>	

【中世文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜
	【時限】3限
【教員名】荒木優也	
【テーマ】『百人一首』を古注釈で読む	
(演習内容)	
<p>『百人一首』は、藤原定家の撰とされてきたが、昨今の研究においては否定されている。ただし、定家撰でなくとも日本文化に及ぼした影響が大きいことに変わりはない。履修者は、前期・後期にそれぞれ指定される『百人一首』の和歌を必ず担当し、古注釈の比較検討、歌語の解釈、考察を行う。そして、前期・後期の学期末にそれら発表をまとめ直したレポートを提出することを義務とする。これらによって、古典和歌の理解、研究方法の獲得をめざす。教科書は、『百人一首古注抄』(和泉書院)を用いる予定である。</p> <p>また、和歌を研究するには多くの知識が必要となるため、「日本時代文学史」(木5 荒木担当)の受講を強く望む。なお、卒業論文で荒木を指導教員に選ぶ可能性がある者は、履修することが望ましい。</p>	
(評価方法)	
発表資料・内容 50% 授業参加(質疑応答)20% 学期末レポート 30%	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】荒木優也	
【テーマ】『古今和歌集』『新古今和歌集』を読む	
(演習内容)	
<p>本演習では、ⅡA・ⅢA(前期)において『古今和歌集』、ⅡB・ⅢB(後期)において『新古今和歌集』を対象とした発表を行うことで、古典和歌の理解、研究方法の獲得をめざす。履修者は、前期・後期にそれぞれ指定される和歌を必ず担当し、『新編国歌大観』を用いながら歌語の解釈、歌の考察を行う。そして、前期・後期の学期末にそれら発表をまとめ直したレポートを提出することを義務とする。</p> <p>教科書は、小町谷照彦 訳注『古今和歌集』(ちくま学芸文庫)を用いる予定である。</p> <p>また、和歌を研究するには多くの知識が必要となるため、「日本時代文学史」(木5 荒木担当)の受講を強く望む。</p> <p>なお、卒業論文で荒木を指導教員に選ぶ可能性がある者は、履修することが望ましい。</p>	
(評価方法)	
発表資料・内容 50% 授業参加(質疑応答)20% 学期末レポート 30%	

【近世文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】岩崎雅彦	
【テーマ】浄瑠璃の研究	
(演習内容) 浄瑠璃の作品『酒呑童子出生記(しゅてんどうじしゅっしょうき)』を扱う。浄瑠璃は近世に新しく生まれた語り物で、三味線の演奏とともに語られた。『酒呑童子出生記』は、室町時代の御伽草子『大江山絵巻』『酒呑童子』などをもとに、新たに創作を加えて作られた作品である。授業は個人発表の形で、本文の注釈と現代語訳および考察を行う。	
(評価方法) 各回の発表の内容、および期末レポートで評価する。欠席は原則として認めない。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜
	【時限】3限
【教員名】中村正明	
【テーマ】黄表紙を読み解く ―江戸の庶民文化と文学―	
(演習内容) 黄表紙は、江戸時代中期に始まる草双紙の一時期(安永～文化期)を指す呼称で、滑稽と奇趣、うがちと通人性に満ちた絵入り読み物である。絵が大きく描かれ、その余白に文章が書き込まれるという特異な性質を持った文学ジャンルであり、江戸庶民に広く受け入れられた。そのため、黄表紙には当時の人びとの生活・風俗・文化がいきいきと描き出されている。本演習では、そうした多種多様な江戸の時代層を読解し自ら調査・発表することを第一義とする。また、それだけでなく、近世文学独特の表現を把握・考察することにも重点を置きたい。そのことが黄表紙の理解のみならず、深く江戸時代の文学全体の理解へと繋がることにもなるだろう。黄表紙の代表的な作品数種(『金々先生栄花夢』『無題記』など)を扱う予定。近世文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。	
(評価方法) 演習発表 60%、授業参加(質疑応答) 30%、レポート 10%。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】中村正明	
【テーマ】明治初期文学を読み解く ー仮名垣魯文と新聞小説ー	
<p>(演習内容)</p> <p>本演習で扱う明治初期というのは、明治初年代から十年代を指しており、近代文学成立期に当たる。近世文学から近代文学へと移行する端境期に当たるこの時期の文学は、政治の鳴動と社会・文化の変化を直接的に反映するものが多いと言えよう。</p> <p>本演習では、江戸・明治の両時代に跨って活躍した戯作者であり、新時代のジャーナリストである仮名垣魯文の作品を扱う。特に魯文が主幹であった小新聞『かなよみ』の雑報記事をもとに文芸化された『高橋阿伝夜刃譚』(明治十二年刊)を読むことにしたい。本作は、実際の事件として話題となった、毒婦と呼ばれた女性高橋お伝による殺人事件を題材とした実録小説である。そこに見られる明治開化期の間人像や新時代の文化風俗が文学作品としてどう描き出されているか、丹念に拾い出して読解することを主眼としたい。</p> <p>大局的には、こうした明治初期の新時代文学への胎動を、各受講者が自ら捉え考えていくことになるだろう。作品をしっかりと読み込んで授業に臨んでほしい。</p> <p>明治初期文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表 60%、授業参加(質疑応答) 30%、レポート 10%。</p>	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】金曜
	【時限】4限
【教員名】藤川雅恵	
【テーマ】江戸時代の怪談集を読む	
<p>(演習内容)</p> <p>この授業では、近世怪異小説研究への入門として、『諸国因果物語』を精読します。各自の担当箇所について、本文の吟味や注釈と現代語訳を行い、その中で特に興味を持った事項について、発展的な調査をしたことを発表してもらいます。発表の内容をもとに、質疑応答を行います。教員からの質問や問題提起もありますので、発表者のみならず、それ以外の皆さんにも回答してもらいます。これらの作業によって、一話の構造や主題などを導き出すことをこの授業の第一の目標とします。</p> <p>この作品には、中国の怪談をもとにした話、実在の人物の登場、実際に起こった事件、各地の名所の紹介など、怪異以外の要素もたくさん含まれています。これらを調査することで、江戸時代の文化の様相についての新たな知見を得て楽しんでもらうことも、この授業のもう一つの目標です。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表(60%)、通常の授業での問題提起に対する回答と他の発表者の発表内容の理解度(20%)、平常点(20%)を併せて、総合的に評価します。</p>	

【近現代文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】金曜
	【時限】3限
【教員名】石川則夫★	
【テーマ】近現代文学専攻者の卒論作成に向けての演習	
(演習内容)	
A 前期は、各自の先行研究史の紹介と批判検討を発表して、質疑応答を行う。 B 後期は、各自の卒業論文の本論の途中経過報告を発表し、質疑応答を行う。	
(評価方法)	
A・B それぞれ、個人発表30%、質疑応答20%、レポート50%。卒業論文の評価はこの演習とは別である。演習としてのレポートは、A 前期は先行研究史としてまとめる。 B 後期は、3年生から取り組んできた卒業論文の作成過程を振り返り、今後の課題点をまとめる。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】5限
【教員名】安西晋二	
【テーマ】戦後以降の現代小説を読む	
(演習内容)	
1945年以降（昭和後期）の文学作品を読解し、その特徴と研究方法を学ぶ授業となる。多様化していく時代状況のなかで、文学作品がどのようにしてそれを背景としながら描かれているかを検討したい。本演習では、1945年前後～1970年代の短篇小説を対象とする。前期は、石川淳「焼跡のイエス」、梅崎春夫「蜆」、三島由紀夫「卵」、安部公房「棒」、大江健三郎「奇妙な仕事」を、後期は、倉橋由美子「パルタイ」、有吉佐和子「亀遊の死」、佐多稲子「水」、金井美恵子「兎」、林京子「ギヤマン ビードロ」を取り上げる予定である（履修者の状況等により変更の可能性もある）。 作品ごとにグループを作り、発表に臨んでもらう。発表は、1週目に先行研究の整理・批評および注釈（ことばや時代背景への理解）、2週目に作品自体に対するグループの見解という展開で実施する。そのうえで、それぞれの発表内容に対し質疑応答を行う。	
(評価方法)	
前期・後期ともに、個人発表のほか、その発表内容（質疑応答含む）をふまえたレポートを作成し、提出してもらう。 口頭発表・質疑応答等70%、レポート30%	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】安西晋二★	
【テーマ】近現代文学の作品研究	
<p>(演習内容)</p> <p>原則として、安西晋二を指導教員とする卒業論文履修者(4年生)を対象とする。前期は、各自の卒業論文対象作品の先行研究について整理し、それについての批評を発表する。後期は、卒業論文本論に当たる、対象作品の研究発表を行う。卒業論文の途中経過報告という形になるだろうが、自身がどういう見解を論述するのか、他者にそれが伝えられるように準備をしておくこと。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>前期・後期ともに、個人発表のほか、その発表内容(質疑応答含む)をふまえたレポートを作成し、提出してもらう。</p> <p>口頭発表・質疑応答等70%、レポート30%</p>	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】月曜
	【時限】2限
【教員名】鬼頭七美	
【テーマ】新聞小説を読む	
<p>(演習内容)</p> <p>明治時代のベストセラーとして名高い新聞小説をいくつか取り上げて精読する。尾崎紅葉の『金色夜叉』、徳富蘆花の『不如帰』などが大ヒットしたあとを受けて、我々に馴染みの深い夏目漱石の新聞小説へと至る流れを、作品の内容を読み解きながら確認していく。漱石については『それから』を取り上げる予定である。長編小説を複数の受講者が分割して分担し、それぞれのパートを読解し発表を行ってもらう予定である。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表、出席、授業中の発言(回数、内容など)、期末レポートなどにより、総合的に判断する。</p>	

<p>【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB</p>	<p>【曜日】月曜 【時限】4限</p>
<p>【教員名】岡崎直也</p>	
<p>【テーマ】堀 辰雄の文学</p>	
<p>(演習内容)</p> <p>(演習内容) 堀辰雄は、非人称の客観的視点で各作中人物の深層心理を明晰に分析する「聖家族」で主語なし日本語構文の特徴を生かし、固定するはずの視点を〈婉曲表現〉の多用で各作中人物の傍らに寄り添わせつつ経験の切実さを掬い上げた。</p> <p>しかし堀は、叙述による小説の全知的な統御への不信から『美しい村』『風立ちぬ』において、小説を書く行為自体を一人称で小説に書く、いわゆる〈小説の小説〉の試みを繰り返す。主人公〈私〉の生が、同一人物である小説家〈私〉によって表現され、また逆に、その小説家〈私〉の創作行為が同一人物である主人公〈私〉によって生きられる、といった互いを問い直す円環を仕組み、小説家が向き合う現実と、それから創りあげようとする世界との相剋を丹念に追究したのであった。</p> <p>その後、多人物が交渉する〈ロマン〉を書くべく堀は「菜穂子」で非人称の客観的視点を再び採用するが、心理分析を排し、場面ごとに異なる作中人物に寄り添った心理や無意識の描写と、汎神論的な自然描写とによって、叙述の全知的な統御を慎重に避ける。モダニズム文学の推進者であった堀は、一方で古人の生活に学びながら王朝小説を書きつぎ、自然描写と照応する身体感覚によって〈生〉を実感する「曠野」を執筆した。主人公の女の心理は、叙述による断定とそこから幽かに逸れる内心の吐露とのあいだを揺らぐままに提示されている。</p> <p>作品ごとに発表グループを作り、本文批評・注釈・研究史・鑑賞などの整理をもとに順次発表させ、提起された問題点について教員・学生相互の活発な質疑応答を図りたい。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点 60% [発表・授業時小レポート・質疑応答]、単位レポート 40%</p>	

日本文学科 新3年生対象
令和7年度開講「演習」仮シラバス

【日本語学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限
日本語学演習ⅡA・ⅡB	仁科 明	月	5
日本語学演習ⅡA・ⅡB	小田 勝	月	6
日本語学演習ⅢA・ⅢB	吉田 永弘	木	6
日本語学演習ⅢA・ⅢB	諸星 美智直	木	3
日本語学演習ⅢA・ⅢB	三井 はるみ	火	6

【日本語学演習Ⅱ・Ⅲ】

【科目名】日本語学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】月曜
	【時限】5限
【教員名】仁科 明	
【テーマ】中古日本語の研究	
(演習内容) ことば(語彙や語法)に注目しながら、中古(八代集)の和歌を読んでいく。注釈類を参考にしつつ、そこで用いられていることばが、古代の和歌や散文作品においてどのように用いられていたのか、各種索引類も利用しつつ確認し、理解を深め、解釈を確定していきたい。 毎回、発表者と司会者(発表へのコメント担当)を決めて、両者を中心に、参加者の意見も求めながら議論し、読み進めていく予定(分担は各学期のはじめに決定する)。発表資料は発表の前週までに配布することとするので、担当者・司会者以外の参加者も目を通して、発言ができるようにしておいてほしい。	
(評価方法) 授業への参加(発表・質疑など)・50%、レポート50%。	

【科目名】日本語学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】月曜
	【時限】6限
【教員名】小田 勝	
【テーマ】古典文法の研究、古典文解釈法の研究	
(演習内容) 『源氏物語』(今年度は薄雲巻)を正確に読解する。本文について、機能語(助詞・助動詞)の役割、各語句の係り受け、構文、敬語等について明示的な説明を与えた上で、その結果としての完全な直訳を作成する。明確に説明できない箇所(そのような箇所は相当多い)は問題点であるから、索引を用いて類例を集めたり、諸注・先行諸説にあたったりして、充分調査・研究すること。受講者が一定の範囲を分担し、その発表に基づいて演習を行う。発表者のほか、指定したコメンテーターを置く。発表の前週までに資料を配付するので、受講者全員が資料を検討して授業に臨んでもらいたい。	
(評価方法) 発表50%、レポート50%	

【科目名】日本語学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】吉田永弘	
【テーマ】中世日本語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>キリシタン資料の『天草版平家物語』をとりあげて、中世末期の日本語を学習する。はじめに担当教員が演習の方法を解説した後、各自担当箇所調査・報告を行う。発表を経て、問題点をさらに追究し、レポートにまとめる。</p> <p>以上の作業を通して、中世日本語が古代語から近代語への流れの中にあることを理解しながら、日本語の史的研究の方法を身につける。あわせて、発表する力・レポートを作成する力を養う。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表 50%、レポート 50%。</p>	

【科目名】日本語学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】3限
【教員名】諸星美智直	
【テーマ】ⅢA ビジネス言語学（文書・会話の語彙・語法）とⅢB 近代敬語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>少子化とグローバル化により異文化共生の時代となりつつある現代社会で生き抜くためには、教職に関しては国語教育と日本語教育の両方に対応できる人材、企業については国際交流を視野に入れた経済活動に役立つ言語能力を習得することが就職力を強めることになる。そこで、ⅢA [前期] は、現代のビジネス文書及び経済小説・企業ホームページを資料として、ビジネス敬語・語法・語彙を中心に①通時的、②共時的、③対照言語学的、④ポライトネスなどの方法によって、例えば「～いただけますようお願い申し上げます」のような揺れ動くビジネス敬語の実態を解明する。ⅢB [後期] は近代日本語（近世～現代）の研究テーマの概要を述べた後、近代の小説・速記録・日本語教科書等を資料として、近代敬語の変遷を分析する。日本文学科の就職先としてサービス・卸・小売りが多く、また就活支援に力を入れている金融・製造・公務員等の進路に益することを考慮して、敬語研究を重視するとともに実践的な業界・企業研究を兼ねた就活に強い「ビジネス言語学」の構築を目指している。これは同時に日本語教育学における学習者の主要なニーズでもある。前・後期とも、講座担当者による解題と先行研究の紹介のあとは、受講者による研究発表の形式で進めて行くので、活発な質疑応答の場となるよう望む。なお、随時、日本語学・日本語教育学の関連学会の情報を紹介する。卒業論文の履修者には履修を勧める。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表・質疑（20%）・単位レポート（80%）による。</p>	

【科目名】 日本語学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】 火曜
【教員名】 三井はるみ	【時限】 6 限
【テーマ】 社会言語学文献講読と調査研究	
<p>(演習内容)</p> <p>新語・新用法、ことばのジェンダー差、ことばの「誤用」、ネーミングなど、身の回りのことばをめぐるトピックは、興味深い話題として人々の関心を引きつける。一方で、そのような目に付く現象を、言語的、社会的背景の中で理解し、読み解くためには、一定の手順によるデータの収集とその分析が必要となってくる。本授業では、主として社会言語学的なテーマについて、研究対象の設定、先行研究の探索、資料、データ収集法、分析法など、言語研究に必要な方法論を学ぶ。前期は論文講読。指定した研究論文を受講者各自が担当し、報告・討論を行う。後期は小研究発表。各自がテーマを定めて小調査を行い、発表する。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表内容とレポートによって評価する。発表は前後期各 1 回担当し、それぞれについてレポートを提出する。</p>	

日本文学科 新3年生対象

令和7年度開講「演習」仮シラバス

【伝承文学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	飯倉 義之	金	4
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	八木橋 伸浩	水	2
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	内藤 久義	月	4
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	大石 泰夫	水	2
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	松尾 恒一	木	5
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	高久 舞	水	2
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	鈴木 明子	金	6
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	伊藤 龍平	火	6
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	伊藤 慎吾	月	5
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	服部 比呂美	金	3

【伝承文学演習Ⅱ】

【科目名】伝承文学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】金曜
	【時限】4限
【教員名】飯倉義之	
【テーマ】現代の伝承・都市民俗を調査・研究する	
(演習内容) 伝承文学や民俗学は、わたしたちとは関りの薄い、遠い過去の生活の中に存在するものと思われがちですが、しかし「民俗」や「伝承文学」は、いま・ここを生きるわたしたちの生活の中にも見出すことができるものです。 この演習では、いま・ここにおける民俗・伝承文学を発見し、考察するための調査法・研究方法を論文講読と演習発表を通して学びます。 卒業論文履修者（指導教員は問いません）の受講を優先します。	
(評価方法) 授業時発表（40%）前期・後期1回以上。発表内容のほか、レジュメや発表の構成も評価します。 レポート（40%）授業時の発表を元にしたレポートを提出してもらいます。 受講姿勢（20%）コメントペーパーに、発表への感想・質問を記入してもらいます。	

【科目名】伝承文学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】水曜
	【時限】2限
【教員名】八木橋伸浩	
【テーマ】現在学としての民俗学の実践的演習	
(演習内容) ことば・行為・感覚・形象によって超代的に伝達・継承されてきた様々な民間伝承を素材に、日本の民俗文化の本質を把握し理解するため、受講生は各自の問題意識に沿って自らが設定した研究テーマについて資料収集・調査研究を行ない、その分析内容や結果について発表・討議を行なう。単に事典類や概説書などによる概要説明では本演習の要件は満たさない。原則として前期は文献調査を中心とした発表を行ない、後期はフィールド調査を踏まえた分析を加味して研究を深化させていく。研究テーマは限定しないので、自身が関心を持つ素材をとおして民俗研究の方法を実践的に学びながら、現在学としての可能性に迫ってほしい。卒業論文の作成と関わらせての受講も大いに歓迎する。 ※近年、受講生が研究テーマとした素材の例：人身御供、聖地巡礼、妖怪、鬼、オシラ様、狼、稻荷、博多祇園山笠、剣舞、イタコ、ユタ、能、コトヨウカ、盆、ダルマ供養、語り部、時間、闇、異類婚姻譚、おわら風の盆、七夕、太鼓、神輿、山車、獅子舞、富士塚、橋、鳶、神酒口、握り飯、仙台四郎、シーサー、偽汽車、猫の踊り場、異界駅、新作落語、将門伝説、疫病除け、安産祈願、捨子、幼児双方、巨人伝説、手長足長……etc.	
(評価方法)	

前期・後期の各発表内容（75%）、質疑応答など授業への参加度（15%）、出席点（10%）を総合的に判断し、平常点で評価を行なう。特に発表をめぐる討議へ積極的に参加しているか否かを重視する。

【科目名】 伝承文学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】 月曜
	【時限】 4限
【教員名】 内藤久義	
【テーマ】 境界の民俗学	
(演習内容) 境界とは自己と他者を弁別するだけではなく、民俗学においては共同体と排除、民族と越境、ジェンダーとマイノリティなど、現代に続く多様な事象をはらんで敷設されている。本授業では、音楽・映画・アニメなどに表象される民俗学的要素なども検討材料とし、民俗学における境界性を探求してゆくが、教員だけの講義ではなく、授業履修者によるディスカッションや授業での応答を重要視する。	
(評価方法) 学期末レポート70%、リアクションペーパー20%、授業での応答10%	

【伝承文学演習Ⅲ】

【科目名】 伝承文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】 水曜
	【時限】 2 限
【教員名】 大石泰夫	
【テーマ】 祭礼と芸能及びそれに関わる多様な民俗を考える	
(演習内容)	
<p>大きなテーマは祭礼と芸能だが、それを支える組織、作り物、食べ物などいろいろな要素が伝承され、祭礼と芸能に関わる歴史や伝承も伝わり、いろいろな民俗を学ぶことができるのが祭と芸能である。</p> <p>まず、受講者が調べたい、考えてみたい祭礼か芸能を担当教員の面談を経て決定する。それについて「どうして興味を持ったのか、何を調べて、何を明らかにしたいのか」を発表し、他の受講生と共に意見交換して、どのように調べるのかを決定していく。その後、可能であれば2回の口頭発表を行い、最終的にレポートをまとめる。</p> <p>民俗調査は先行報告・論文の文献調査をまとめることと、それに基づいたフィールドワークによって行われる。ぜひ、フィールドワークの楽しさを知ってもらいたい。</p>	
(評価方法)	
<p>口頭発表とそれに用いる資料、フィールドワークの内容、レポートによって総合的に評価する。また、授業に出席し、他の受講者の発表に積極的に発言することも授業に取り組み姿勢として評価する。</p>	

【科目名】 伝承文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】 木曜
	【時限】 5 限
【教員名】 松尾恒一	
【テーマ】 祭礼・芸能文化、年中行事、民間信仰・民俗宗教の調査と研究法	
(演習内容)	
<p>わが国の祭礼・芸能文化、家や町村の年中行事、及び、これらと関連の深い民俗宗教、信仰を考究するための調査法を学ぶ。</p> <p>前者については、夏の祭礼の典型ともなった京都祇園祭、御霊信仰を出発点として、各地の都市祭礼を扱い、祭りと風流、熱狂、暴力といった側面について考える。あわせて、念仏踊り・風流踊りから、かぶき踊り・盆踊りへの分化と諸地域の民俗事例について考察する。</p> <p>後者については、イタコ・山伏・民間陰陽師、琉球地域の女性宗教者（ノロやユタ）等、民間の宗教・芸能と、その担い手となった人々の生活や社会的な側面について考える。芸能や祭儀・呪術の習得のための修行や、差別・被差別や、漂泊といった側面について注目してゆくことになる。関連の民俗として、民間に伝承される冬から春の間の諸地域の神楽についても注目するが、古代における鎮魂呪術としての神楽をも考慮しつつ、地域によっては、病人祈祷や、狩猟における動物霊の鎮魂等の祭儀へと神楽が展開していったこと、その伝承を考えてゆきたい。</p>	

<p>前期は、主として先行研究について、論述の根拠となる資料や、調査の特質について考えてゆく。</p> <p>後期は、実際のフィールド調査に基づいての、現在の伝承の実態と特質を考察する。</p> <p>伝承を考える上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人（伝承者や伝承組織、生業や生活） ・時間（行事や祭儀の内容、準備から終了までの進行） ・空間（祭儀の空間・地域、自然環境） <p>を文字や図解・画像・映像を用いて記録し、明らかにすることが基本となるが、そのほか、祭礼・芸能に特有な、音楽や身体所作、仮面・装束、楽器等のモノ資料からの分析を学ぶ。さらに、その歴史的变化、変容を解明し、理解するための文献・絵画資料を読み解くことも目標とする。</p>
<p>（評価方法）</p> <p>口頭発表 70%（事前指導 20%+当日発表 50%）、またはフィールドワークレポート 70%+平常点（出席・授業時課題等）30%+α（自主フィールドワークレポート等）により評価する。発表のためには、早め（最低でも3週間以上前から）の準備が望ましい。</p> <p>特に、後期の発表者は、夏季休暇中以降のフィールドワークに基づく報告と発表となる。自主的なフィールドワークレポートにも期待し、評価に加える。</p> <p>なお、コロナウイルス等の流行のため on-line による授業となった場合には、on-line と教室での授業等の内容と、割合を勘案して評価の方法を決定する。</p>

<p>【科目名】 伝承文学演習ⅢA・ⅢB</p>	<p>【曜日】 水曜</p>
<p>【教員名】 高久舞</p>	
<p>【テーマ】 民俗芸能研究の方法の習得と民俗芸能の現代的課題を考える</p>	
<p>（演習内容）</p> <p>本演習では民俗芸能研究の方法を学び、その学びを通して民俗芸能の現代的課題について考える。</p> <p>受講生は具体的な民俗芸能を一つ選び、1年を通してその民俗芸能を調査研究する。対象とする民俗芸能は、現在伝承されているものを原則とする。</p> <p>前期では、対象とする民俗芸能の何を問題として、何を明らかにしたいのかを考えるため、先行論文を講読し発表を行う。</p> <p>後期では、対象とする民俗芸能に沿った研究方法（他地域との比較、歴史の変遷など）を見つけ、発表する。なお、後期にはこれまで研究してきたことを踏まえ、現在の民俗芸能の課題についてグループディスカッションを行う。</p> <p>発表・討議を通して、現在の民俗芸能について多角的なアプローチから考えていきたい。</p>	
<p>（評価方法）</p> <p>前期：発表内容および発表を元にしたレポート（レジュメ作成、学期末レポート）60% 授業への取り組み（質疑応答、討議への参加姿勢）40%</p> <p>後期：発表内容およびレポート（問題設定、発表の構成、発表態度、レポートなど）40% 授業への取り組み（質疑応答、討議への参加姿勢）20% グループディスカッションへの取り組み（議論の姿勢）20% グループ発表（発表の構成、発表態度など）20%</p>	

【科目名】 伝承文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】 金曜
	【時限】 6 限
【教員名】 鈴木明子	
【テーマ】 絵図資料に見る芸能と伝承	
<p>(演習内容)</p> <p>近世の絵図資料には、多くの芸能が描かれている。描かれた芸能の中には、現代の民俗芸能や行事にその痕跡をとどめるものもある。</p> <p>前期は、絵図に描かれている芸能を一つ選択し、資料を集めて、芸能の特徴について考察し、発表してもらう。後期は、前期で発表した絵図に見られる芸能が、民俗芸能や行事などの中に痕跡をとどめている事例を渉猟し、発表してもらう。今年度も引き続き基礎的な絵図資料として『人倫訓蒙図彙』巻七「勸進鯛部」を用いる予定である。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>理由なく三分の一以上欠席した場合は単位を認めない。</p> <p>前・後期ともに、最低各一回ずつの発表内容とディスカッションに取り組む姿勢で評価する。</p> <p>後期は、前期の発表内容をあわせて作成したレポートも踏まえての評価となる。</p>	

【伝承文学演習Ⅳ】

【科目名】 伝承文学演習ⅣA・ⅣB	【曜日】 火曜
	【時限】 6 限
【教員名】 伊藤龍平	
【テーマ】 『耳囊』を読む	
(演習内容)	
<p>根岸鎮衛の随筆『耳囊 (みみぶくろ)』(近世後期)は、当時の巷談概説を約1,000話、収集した記録である。著者自身が耳にしたものである点、著者による粉飾や解釈が少なく聞いた話そのまま記されている点など、当時の世間話の様相を知る上での一級資料だと言い得る(「世間話」は口承文芸の一領域を示す学術用語)。本演習では『耳囊』から発表者が興味を持った話を一話もしくは複数話選び、①本文提示、②現代語訳、③語釈、④注目すべきトピックの四点について報告したのち、全体討論を行なう。事前に、取り上げる話が重ならないように調整する。学期末には、自身の発表を2,000字程度にまとめたレポートを提出する。比較的入手の容易な『耳囊』の本文には下記がある。現代語訳もいくつかある(抄訳)。長谷川強 校注『耳囊』(上・中・下) 岩波書店、1991年。鈴木棠三 編注『耳袋』(1、2) 平凡社、1972年。森銑三・鈴木棠三 編『日本庶民生活資料集成』16巻、三一書房、1970年。林若樹 編『集古随筆 四大奇書』1899年、魁真楼。※抄録、国会図書館にデジタルコレクション有。</p>	
(評価方法)	
<p>発表=60点、司会=10点、質疑応答=20点、期末レポート=10点。発表60点の内訳は、①本文提示、②現代語訳、③語釈、④注目すべきトピックの各10点×4に加えて、⑤先行研究の提示、⑥独自性の有無の各10点×2とする。司会は、①時間管理5点、②発表運営の5点×2とする。質疑応答は、一回の発言ごとに0~1点を加点し、上限を20点とする。期末レポートは、完成度に応じて10点満点で評価する。</p>	

【科目名】 伝承文学演習ⅣA・ⅣB	【曜日】 月曜
	【時限】 5 限
【教員名】 伊藤慎吾	
【テーマ】 伝説・怪異伝承と地域社会	
(演習内容)	
<p>【伝説】は、特定の地域の歴史や社会、信仰などと密接に関わりながら伝承されてきた。妖怪を中心とする怪異の伝承も、河童淵や天狗の棲む山など、特定の場所を対象として語られることが多い。【実話怪談】も対象とする。ところが今日はそうした伝承の社会的意義が変化していき、例えば観光との関わりから【地域振興のコンテンツ】としての価値が付加されるケースも少なくない状況にある。</p> <p>当演習では、各自が特定の地域に伝承されてきた伝説や怪異について、調査・考察して口頭報告を行ってもらう。</p>	
(評価方法)	

【科目名】 伝承文学演習ⅣA・ⅣB	【曜日】 金曜
	【時限】 3 限
【教員名】 服部比呂美	
【テーマ】 「諸国風俗問状答」から民俗の比較研究の方法を学ぶ	
(演習内容)	
<p>民俗の比較研究法を学ぶ。伝承資料を収集し、実態 (事実) 把握、自らの視点からの分析、考察という比較研究の方法を習得することを目的としている。具体的な分析方法を学ぶことは、卒業論文を執筆する際にも有効と考えている。</p> <ul style="list-style-type: none">・前期は、文化年間の「諸国風俗問状答」を資料として用いる。年中行事や儀礼など、受講者が課題を決め、「諸国風俗問状答」から該当箇所を抽出し、比較研究を行って、この結果を発表する。たとえば正月の門松が課題であれば、秋田から熊本までの約 20 地域の門松のあり方を確認し、用いられる樹種や供え物の違いなどを発表する。・後期は、受講生が関心のあるテーマについて「市町村史」や「日本民俗地図」の資料集などから事例を収集し、オリジナルデータデータを作成する。これらを比較して、新たな課題を発見する喜びを知ってほしい。・後期の演習では、卒業論文に関する発表も可能である。	
(評価方法)	
平常点 (発表資料、発表内容で評価する。)	

日本文学科 新3年生対象

令和7年度開講「演習」仮シラバス

【専攻外演習科目】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限
言語学演習Ⅰ・Ⅱ	中野真樹	月	3
言語学演習Ⅰ・Ⅱ	新井小枝子	火	1
書道演習Ⅰ・Ⅱ	野村ひかり	月	1
表現文化演習Ⅰ・Ⅱ	川口晴美	木	3
日本語教育学演習ⅠA・ⅠB	新任教員	木	2
日本語教育学演習ⅡA・ⅡB	新任教員	火	6

【専攻外演習】

【科目名】言語学演習Ⅰ・Ⅱ	【曜日】月曜
	【時限】3限
【教員名】中野真樹	
【テーマ】福祉言語学と情報保障についての研究	
(演習内容)	
<p>現在、書かれた日本語というと新聞や書籍の中でよく見る「漢字かなまじり文」のことを思い浮かべることが多いのではないのでしょうか。一方、「やさしい日本語」などそれまでの日本語のありかたとは異なる日本語の書き方もメディア等で着目されるようになってきています。じつは、いつの時代も日本語の表記は多様で重層的です。ここでは日本語使用環境をとりまく障害について、文献や資料を通して考察していきます。Ⅰでは日本語点字について、文字や表記法、読み書きの方法を学習し実際の点字資料を解説していきます。また福祉言語学の学びにはこれまでの歴史的経緯や様々な言論の蓄積について知ることも必要です。そこで点字成立の歴史を知るために近代点字資料を読解していきます。ⅡではⅠでの学びをもとに主に情報保障（誰もがが必要な形で情報を受け取り、発信すること）について文献や調査を通して学びます。そして日本語表記にとどまらずさまざまな社会に遍在する「ことばと障害」について課題発見し考察します。Ⅰ・Ⅱともに教員が解説を行った後に各自の興味関心に応じてテーマを設定し、調査・発表を行います。</p>	
(評価方法)	
毎時間の取り組み（毎回の課題への取り組み、発表、発表に対する質疑）50% レポート（テーマを各自で設定しそれについて調査・論述する）50%	

【科目名】言語学演習Ⅰ・Ⅱ	【曜日】火曜
	【時限】1限
【教員名】新井小枝子	
【テーマ】Ⅰ 方言語彙研究の課題 Ⅱ 方言語彙の記述と考察	
(演習内容)	
<p>日本語方言における語彙に注目します。方言語彙の中から、自身が日ごろ気になっている「一語」を取り上げて、以下の観点から説明します。</p> <ol style="list-style-type: none">①なぜその語が気になるのか。②どこで使われている語なのか。③どのような人が使っている語なのか。④どのような意味用法をもっている語なのか。⑤どのような造語発想法にもとづいている語なのか。⑥どのような歴史をたどってきた語なのか。 など <p>さらに、友人や家族にインタビューしたり、方言辞典をはじめとする方言資料にあたったりしながら、語の具体的な使用方法を収集してデータを蓄積します。さらにそのデータを整理して、わかったことを説明します。取り上げる「一語」が含まれる語彙の体系や地理的分布、その「一語」の語史・語誌を考察します。その過程では、データが語りだすことのおもしろ</p>	

さや、新たな疑問が生ずることの楽しさを実感できると思います。

(評価方法)

- レポート (40%) テーマが的確に設定できたか。設定したテーマに対する調査、データ収集、および分析が的確に行えているか。レポートしての形式が的確に整えられているか。
- 平常点 (60%) 自身の口頭発表とそれに対する質疑への応答。クラスメイトの口頭発表に対する質疑応答への参加。

【科目名】書道演習 I・II

【曜日】月曜

【時限】1限

【教員名】野村ひかり

【テーマ】漢字書道—名品の表現を学ぼう—

(演習内容)

漢字書道における五つの書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)と、書風について、さまざまな名品を臨書することで理解していきます。

自身の個性を生かすにはどの名品を学ぶべきか、自身が求める美しさを追求するにはどの名品を学ぶべきか、ひとりひとり考えていきます。

名品の表現を用いた創作作品を制作します。

書道用具持参のこと。

初心者可。

(評価方法)

提出作品、毎時間の取り組み方

【科目名】表現文化演習 I・II

【曜日】木曜

【時限】3限

【教員名】川口晴美

【テーマ】日本語で書かれたさまざまな詩を読み、自分でも詩を書く。

(演習内容)

詩を読むことを楽しみながら、言葉の働きを知り、表現方法についての考えを深める。自分なりの感想を言語化してやりとりするなかで読解の方法を学ぶ。

自分でも詩を書いて発表し、講評を受ける。

遠隔授業となった場合は、〈授業資料公開→課題提出〉によって進める。

(評価方法)

平常点。

資料の詩や他学生の作品を積極的に読み、自分なりの読解を言語化して伝えられたか。

自作の詩を書いて提出できたか。その作品としての完成度は充分なものだったか。

【科目名】日本語教育学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】木曜
	【時限】2限
【教員名】新任教員	
【テーマ】初級日本語教育における文法指導	
<p>(演習内容)</p> <p>本演習では、日本語教育における初級の文法項目について学習した上で、留学生向けの初級日本語教科書の分析を行う。特定の文法項目を教えるための例文・文法説明・会話文・練習問題について、2種類(以上)の教科書を分析することを通して、初級段階においてどのように文法が教えられているかを把握する。</p> <p>ⅠA(前期):市川保子(2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』(スリーエーネットワーク)を中心に、初級の文法項目を確認する。はじめに教員から日本語教育における文法教育の全体像を解説し、いくつかの文法項目を例に発表の方法や参考文献を提示する。その上で、受講者に文法項目を割り当て、参考書の内容にもとづき補足情報を加えたレジュメを作成・発表してもらう。</p> <p>ⅠB(後期):前期の学修内容に基づき、日本語教科書の分析を行う。はじめに教員から日本語教科書の種類、教科書分析の目的、分析の方法について講義を行う。その上で、受講者に文法項目および分析対象とする教科書を割り当て、レジュメを作成・発表してもらう。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点 60% (授業参加、発表資料、発表、質疑応答)、レポート 40%にもとづき、総合的に評価する。</p>	

【科目名】日本語教育学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】新任教員	
【テーマ】日本語学習者の誤用から日本語を考える	
<p>(演習内容)</p> <p>本演習は、日本語学習者の書きことば・話しことばの観察をとおして、日本語への理解を深めることを目的とする。また、誤用の背景にある学習者の母語の影響・日本語教材からの影響についても検討し、日本語学習者の誤用を多角的に捉える方法を学ぶ。</p> <p>ⅡA(前期):日本語学習者を対象とした書きことば及び話しことばに関する論文を取り上げて、輪読する。日本語学習者の誤用(=誤った使用)・非用(=既習であるにもかかわらず不使用)についての理解を深めると同時に、日本語教育のための文法研究の方法論を学ぶ。</p> <p>ⅡB(後期):各自が小テーマを設定して研究計画をたて、日本語学習者/日本語母語話者の書きことば或いは話しことばについて調査を行い、レジュメを作成して発表する。調査資料は、コーパス(例:「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、「I-JAS」、「日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス」等)を対象とするほか、質問紙調査等、受講者の関心にあわせて扱うデータを決定する。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点 60% (授業参加、発表資料、発表、質疑応答)、レポート 40%にもとづき、総合的に評価する。</p>	